

新国立劇場 2016/2017 シーズンオペラ
ワーグナー 楽劇「ニーベルングの指環」第2日

ジークフリート 【新制作】

Siegfried

2017年6月1日(木)～17日(土) 会場:新国立劇場オペラパレス
【2月18(土)前売開始】



英雄ジークフリート登場！いよいよ「^{リング}指環」は後半へ

飯守泰次郎指揮、ゲッツ・フリードリヒ演出のプロダクションで1年半前にスタートした「指環」第3弾。
ついに登場した英雄ジークフリートは、神々を救うことができるのか…？
少年ジークフリートが冒険を経て眠れるブリュンヒルデを目覚めさせる、メルヘンの成長物語。

ゲールド、メルベート、グリムスレイ、コンラッド…最強のワーグナー歌手総出演！

難役中の難役<ジークフリート>は、世界的ヘルデンテノールのゲールド。
ジークフリートはウィーン、バイロイトなど世界各地で50回以上歌っている当たり役です。
<ブリュンヒルデ>はワーグナー・ソプラノのとして人気絶頂のメルベート。
<さすらい人(ヴォータン)>は『ワルキューレ』でファンを圧倒したグリムスレイ。
悪役<ミーメ>は『ラインの黄金』でもキャラクター・テノールぶりを発揮したコンラッド。
世界最強のキャストが揃い、『ジークフリート』の豊穡でロマンティックな世界をお届けします。

★本演目は新制作ですが、フィンランド国立歌劇場(ヘルシンキ)の協力により上演されます。
フィンランドで上演された舞台写真を宣材としてご提供できます。

<資料・写真のご請求、ご取材のお問い合わせ>

新国立劇場 制作部オペラ 広報担当 高梨 木綿子

Tel:03-5352-5733/Fax:03-5352-5709

E-Mail:takanashi_y2525@nntt.jac.go.jp

新国立劇場 2016/2017 シーズンオペラ
ワーグナー 楽劇「ニーベルングの指環」第2日

ジークフリート

初演: 1876年8月16日/パイロイト祝祭劇場

作曲・台本: リヒャルト・ワーグナー(1813-1883)

英雄ジークフリート登場！いよいよ「^{リング}指環」は後半へ

2015/2016 シーズンからスタート、3年がかりで全4作を上演する新国立劇場の大型プロジェクト「ニーベルングの指環」。16/17シーズンの締めくくりには第3作『ジークフリート』を上演します。

『ジークフリート』は指環奪還のため神々の望みをかけられて誕生した英雄ジークフリートの成長物語。前作『ワルキューレ』で出会ったジークムントとジークリンデの間に生まれた少年ジークフリートが霊剣ノートゥングを鍛え上げ、大蛇に化けたファフナーを倒して、ジークフリートを利用しようと狙う養父ミーメを殺し、森の小鳥に導かれて、前作で眠りについたヴォータンの娘ブリュンヒルデに出会い、結ばれるという、メルヘン的なストーリーが展開します。ジークフリートの「鍛冶の歌」、単独で演奏されることも多い「森のささやき」、そして終幕の壮大な愛の二重唱と、豊穡でロマンティックな聴きどころにもあふれています。今回も、指揮は日本におけるワーグナーの第一人者である飯守泰次郎芸術監督、明快で美しく、人間の本質に迫るドラマと反響を呼んでいるドイツの巨匠ゲッツ・フリードリヒ晩年のプロダクション(『ジークフリート』は98年フィンランド国立歌劇場初演)で上演します。

グールド、メルベート、グリムスレイ、コンラッド…世界最強のワーグナー歌手総出演！

上演時間6時間に及ぶドラマの中心で、スタミナ、表現力ともに求められる難役中の難役<ジークフリート>は、世界的ヘルデンテノールのグールドが出演。この「指環」プロジェクトでテノールの主要4役——『ラインの黄金』ローゲ、『ワルキューレ』ジークムント、『ジークフリート』『神々の黄昏』ジークフリート——に出演するという偉業に挑んでいるグールドが、ウィーン、パイロイトなど世界各地で50回以上歌っている当たり役ジークフリートをいよいよ披露します。

『ワルキューレ』『ジークフリート』『神々の黄昏』と連なる物語の中心人物ブリュンヒルデ役<ブリュンヒルデ>はワーグナー・ソプラノのとして人気絶頂のメルベート。新国立劇場には『さまよえるオランダ人』ゼンタ(15年)で飯守泰次郎芸術監督の指揮とタッグを組んで以来の登場です。<さすらい人(ヴォータン)>は『ワルキューレ』ヴォータン役で圧倒的な歌唱と真に迫る演技でファンを圧倒し、幕切れの感動とカタルシスを呼んだグリムスレイ。悪役<ミーメ>には『ラインの黄金』の同役でもキャラクター・テノールぶりを発揮し鮮烈な印象を与えたコンラッドが再登場します。今回も世界で最も旬のワーグナー歌手が勢揃いしての上演、興奮を呼んできた「指環」プロジェクトの後半は、ますます見逃せません。

■『ジークフリート』——真に自由な英雄の成長物語 新国立劇場オペラ芸術監督 飯守泰次郎

『ジークフリート』は、一人の人間が成長していく過程を描いた物語です。若者が、人格形成の各段階で多かれ少なかれ経験する心理状態が、実に生き生きと描かれます。自分のアイデンティティを探し、母親に憧れ、やがて異性への憧れに目覚め、父親的な存在(養父、祖父)を踏み越えていく過程は、まさに生身の人間の成長そのものです。

周囲と次々に衝突し、破壊しながら成長していくジークフリートの姿は、西洋的な成長過程の典型です。しかも彼は、真に自由で創造的な英雄です。単に周囲の環境を破壊するだけでなく、新たに目覚めさせていく要素を持っています。名剣ノートゥングを鍛え直して秘めた力を覚醒させ、洞窟に眠る大蛇ファフナーを目覚めさせ、炎に囲まれ山頂に封じ込められていたブリュンヒルデの眠りを解きます。

英雄ジークフリートの成長ぶりを描くワーグナーの音楽は、大胆不敵なエネルギーが爆発するかのようです。剣をへし折り、養父ミーメを殺し、大蛇を退治し、さすらい人(ヴォータン)の槍を打ち砕く、といった彼の狼藉ぶり、過剰ともいえるこのエネ

報道用資料

ルギーが、創造的な発展へと見事に結びついています。「怖れを知らぬ」若さというのは破天荒な側面があります。本当の創造は、行き過ぎと思えるほどの破壊を経てこそ到達される、ということは、西洋の歴史が証明しています。

この楽劇は、ワーグナーとは到底思えないような、軽やかな、あるいは透明で繊細な音楽が多いことも特別な魅力のひとつです。第1幕でさすらい人が去った直後、ミーメの妄想の場面の奇怪な響きは、表現派あるいは印象派を思わせます。第2幕でジークフリートが、会ったことのない母親への思いを独白する場面は大変デリケートで、有名な「森のささやき」の場面も空気と光が透けて見えるようです。第3幕でジークフリートが炎を乗り越え、ブリュンヒルデの眠る静かな岩山に到達する場面、そして長大な愛の二重唱のなかでブリュンヒルデが「私は永遠の時を生きてきた」と歌う場面の「ジークフリート牧歌」の音楽も、驚くほど透明で繊細です。一般的なワーグナーのイメージである、重厚さや聴き手に強要するような力とは全く異なる、フランス音楽に近いような意外な表現が大変効果的です。

この楽劇では、次々と事件が起きる部分の合間に、物語の進行が止まって話の展開を振り返るような“問答”あるいは“対話”の場面が数多く出てきます。言葉(テキスト)の多さ、音符の数の多さも際だっています。まず第1幕がミーメとジークフリートのやりとりで始まり、各幕において登場人物は様々な組み合わせで対話します。第3幕の最後の愛の二重唱にまで、問答が含まれています。これによって物語の意味となりゆきが聴き手に明らかになり、過去・現在・未来が立体的に理解されるのです。このような問答の場面で、示導動機が変容しながら極めて効果的に用いられ、聴き手を案内します。

『ジークフリート』における大蛇ファフナーは、人間の所有欲を体現しています。財産を所有して眠っている姿は、まさに資本主義の最も否定的な一面です。しかし、そのファフナーが息絶える場面は、深く心打たれるものがあります。資本主義社会が行き詰まり、様々な問題を抱える時代に私たちは生きています。恐れを知らぬジークフリートが、過去を破壊して新しい時代を創っていく姿は、私たちに勇気を与えてくれます。長大な愛の二重唱は「リング」の中で最も幸せな場面であり、オーケストラの全強奏によるハ長調の最終場面で、歓びは絶頂に達します。ワーグナーの圧倒的な音楽で、この最高潮の瞬間を皆様に体験していただきたいと思います。

■ワーグナーの楽劇「ニーベルングの指環」

「ニーベルングの指環」とは、独立した楽劇である序夜『ラインの黄金』、第1日『ワルキューレ』、第2日『ジークフリート』、第3日『神々の黄昏』から成る壮大な作品のことである。いわゆる「リング」の名で親しまれ、演奏時間はトータルでおよそ15時間(休憩含まず)を要する空前の大作となっている。

作曲家のワーグナーが『さまよえるオランダ人』以後、『タンホイザー』、『ローエングリン』の創作を経て、まさに脂がのった頃の作品である。他の作品同様、台本もワーグナー自身が手掛けた。物語は中世ドイツの叙事詩「ニーベルンゲンの歌」を題材に北欧神話や作曲者のアイデアが盛り込まれ、「指環」をめぐる神々と様々な種族との争い、破滅、そして没落していく歴史が壮大に描かれる。「神話」「神々」といったキーワードゆえに難解に思われがちだが、幻想的で崇高な雰囲気の中にも、登場するキャラクターには我々人間の愛や欲情、権力、醜悪が巧みに投影されている。

作曲においてワーグナーは、特定の想念、人物、事物、状況などに決まった旋律(主題)をあてはめて作曲している。これは「ライトモチーフ(Leitmotif/示導動機)」と言われる作曲の技法である。ワーグナーはこれを体系化して発展させ、壮大で複雑な展開の「指環」では特に徹底して駆使し、四部作全体に張り巡らせた。

途中、およそ7年の中断期間があったにせよ、台本着手から作曲完成まで26年もの歳月を要したことから、作品への力のいれようがわかる。何しろ、ワーグナーはこの作品のために、理想の形で上演するための劇場、パイロイト祝祭劇場をつくってしまったほど。自身の意思に反して『ラインの黄金』と『ワルキューレ』は、当時のバイエルン王、ルートヴィヒ二世に単独上演されてしまったものの、1876年8月、四部作一挙上演のための音楽祭「パイロイト音楽祭」で、その願いは叶えられたのだった。

今日でも「指環」を上演することは世界中の歌劇場にとって大きな挑戦であり、試金石ともされる特別な演目。新国立劇場では2000/2001シーズンから03/04シーズンに4年間かけ初の「指環」を新制作上演、08/09、09/10シーズンに再演し、15/16シーズンからは新たな「指環」を上演している。

報道用資料

■『ジークフリート』ものがたり

【第1幕】ジークリンデは森で息子ジークフリートを産んで亡くなり、鍛冶屋ミーメが育てていた。ジークリンデから渡された霊剣ノートウングの破片を鍛えて、大蛇に化けて指環を抱えるファフナーを倒したいとミーメは考えているが、彼にはどうしても鍛えられない。さすらい人の姿をしたヴォータンが「霊剣を鍛えられるのは『恐れを知らない者』だけだ。その者にお前は殺される。」とミーメに伝える。ジークフリートがノートウングを鍛え上げる。

【第2幕】森でファフナーを見張るアルベリヒのもとにさすらい人がやってくる。アルベリヒは、いずれ自分が指環を手に入れ世界を支配する、と言い放つが、さすらい人は、ミーメが連れてくる子が指環を手にとると予言する。ミーメは、大蛇ファフナーのいる洞窟の前にジークフリートを連れてくる。ファフナーが目覚まして出てきたところを、ジークフリートはノートウングで心臓を一突き。ファフナーは息を引き取る。剣についたファフナーの血を舂め、森の小鳥の言葉が分かるようになったジークフリートは、洞窟の宝の山から、小鳥から教えてもらった隠れ兜と指環を持って出てくる。さらに、ミーメが自分を毒殺しようとしていることを察知し、一撃をくらわせて殺す。ジークフリートは、岩山に炎に包まれて眠るブリュンヒルデのことを小鳥から教えてもらう。

【第3幕】ジークフリートが岩山へ近づこうとすると、さすらい人が立ちはだかる。しかしジークフリートはものともせず、さすらい人の槍をノートウングで真っ二つにして前へ進む。岩山に辿りついたジークフリートは、女性を初めて見て、あまりの美しさに初めて恐れを知る。そして、口づけして目覚めさせる。ブリュンヒルデは、甲冑も武器もない自分に少し戸惑うものの、永遠にジークフリートのものになると誓う。2人は愛を歌い上げる。

<主要キャスト・スタッフプロフィール>

【指揮】飯守 泰次郎

IIMORI Taijiro

桐朋学園短期大学卒業。在学中に藤原歌劇団公演『修道女アンジェリカ』にてデビュー。1966年ミトロポーロス国際指揮者コンクール、69年カラヤン国際指揮者コンクールでともに第4位入賞。72年、芸術選奨新人賞とバルセロナのシーズン最高指揮者賞を受賞。これまでに読売日響指揮者、プレーメン、マンハイム、ハンブルク、レーゲンスブルクの各歌劇場の指揮者、エンスヘデ市立歌劇団第一指揮者、名古屋フィル常任指揮者、東京シティ・フィル常任指揮者、関西フィル常任指揮者を歴任。現在、東京シティ・フィル桂冠名誉指揮者、関西フィル桂冠名誉指揮者。第32回サントリー音楽賞、第54回芸術選奨文部科学大臣賞受賞。2004年11月紫綬褒章、10年旭日小綬章、12年度文化功労者、日本芸術院賞。14年より日本芸術院会員。第56回毎日芸術賞（音楽部門）受賞。新国立劇場では00年『青ひげ公の城』、08年地域招聘公演『ナクソス島のアリアドネ』、12年オペラ研修所公演『フィレンツェの悲劇』『スペインの時』、14年『パルジファル』、15年『さまよえるオランダ人』、『ラインの黄金』、16年『ローエン格林』『ワルキューレ』を指揮。17/18シーズンには『神々の黄昏』『フィデリオ』を指揮する予定。14年9月より新国立劇場オペラ芸術監督。

【演出】ゲッツ・フリードリヒ

Götz FRIEDRICH

1930年ドイツのナウムブルク生まれ。ワイマールのドイツ演劇学院卒業後、旧東ドイツ時代のベルリン・コーミッシェ・オーパーで名演出家のワルター・フェルゼンシュタインの助手を務める。72年のバイロイト音楽祭で『タンホイザー』の演出を手がけて注目を集め、81年にはベルリン・ドイツ・オペラの総監督に就任。以後、斬新なプロダクションを次々に展開して同オペラハウスを西ドイツの文化をリードする象徴として育て上げた。その演出は没後も脈々と受け継がれ、ベルリン・ドイツ・オペラにて上演されている。主な作品として、「ニーベルングの指環』『ニュルンベルクのマイスタージンガー』『タンホイザー』『さまよえるオランダ人』『ローエン格林』『パルジファル』『ばらの騎士』『アラベッタ』『トスカ』『ラ・ボエーム』『トゥーランドット』『アイーダ』『ファルスタッフ』『仮面舞踏会』『椿姫』『フィガロの結婚』『エウゲニ・オネーギン』『ヴォツェック』などがあり、新国立劇場においては、2000年11月に『青ひげ公の城』が上演された。2015/2016シーズンより「ニーベルングの指環」4部作が上演されている。2000年12月逝去。

【ジークフリート】ステファン・グールド

Stephen GOULD

アメリカのヴァージニア州生まれ。ボストンのニューイングランド音楽院で学ぶ。これまでにウィーン国立歌劇場、ザクセン州立歌劇場、バイロイト音楽祭、バイエルン州立歌劇場、メトロポリタン歌劇場などに出演。パリ、ロンドン、ローマ、パレルモ、ベルリン、ハンブルク、マドリッド、ジュネーヴなどヨーロッパ各地の歌劇場で活躍。『フィデリオ』『フロレスタン』、『ローエン格林』『タンホイザー』『ジークフリート』『パルジファル』タイトルロール、『神々の黄昏』『ジークフリート』、『トリスタンとイゾルデ』トリスタンなどをレパートリーとする。最近バイロイト音楽祭『トリスタンとイゾルデ』、ウィーン国立歌劇場『ピーター・グライムズ』、ザクセン州立歌劇場『ジークフリート』、ベルリン・ドイツ・オペラ『タンホイザー』などに出演。今後の主な予定として、ウィーン国立歌劇場、バイエルン州立歌劇場、バイロイト音楽祭で『トリスタンとイゾルデ』に出演予定。新国立劇場では06年『フィデリオ』フロレスタン、09年『オテロ』タイトルロール、10～11年『トリスタンとイゾルデ』トリスタンに出演。15年10月『ラインの黄金』ローゲ、16年10月『ワルキューレ』ジークムントに出演。

報道用資料

演じて大絶賛を博した。この後 2017/2018 シーズン『神々の黄昏』ジークフリートにも出演予定であり、15 年 10 月から開始した「ニーベルングの指環」全 4 作品に出演する。17/18 シーズンには開場 20 周年記念公演『フィデリオ』フロロスタンにも出演予定。

【ミーメ】アンドレアス・コンラッド

Andreas CONRAD

マゲデブルク生まれ。ザクセン州立歌劇場オペラスタジオで3年間の研修の後、1984年にベルリン・コーミッシェ・オーパーと契約し、2007年まで在籍。1998年にベルリン宮廷歌手の称号を授与される。キャラクター・テノールとして世界各地の歌劇場に出演。ルー・トルエンナーレで『モーゼとアロン』アロン、モンテカルロ歌劇場とバイエルン州立歌劇場で『サロメ』ヘロデ、ジュネーヴ大劇場で『ラインの黄金』ミーメ、モンテカルロ歌劇場で『ラインの黄金』ローゲ、アン・デア・ウィーン劇場でチャイコフスキーの『チャロディカ』パイシー、ザクセン州立歌劇場で『こもり』アイゼンシュタイン、ベルリン・コーミッシェ・オーパーで『モーゼとアロン』アロン、ウィーン国立歌劇場で『サロメ』ヘロデに出演している。最近ではオペラ・オーストラリア『ラインの黄金』ローゲ、パリ・オペラ座『魔笛』モノスタスなどに出演している。「ニーベルングの指環」ミーメ役は2015年、16年のバイロイト音楽祭でも出演、17年の同音楽祭でも出演予定。新国立劇場では15年『ラインの黄金』同役出演した。

【さすらい人】グリア・グリムスレイ

Greer GRIMSLEY

アメリカ出身。アメリカとドイツを中心に国際的に活躍しているバス・バリトン。特にワーグナー歌手として知られており、最近ではメトロポリタン歌劇場の「ニーベルングの指環」のチクルス公演、リセウ大劇場『ジークフリート』さすらい人で出演して好評を博している。主なレパートリーとして『トリスタンとイゾルデ』クルヴェナール、『パルジファル』アムフォルタス、『ローエン格林』テルラムントなどがある。また『サロメ』ヨハナーンも主要なレパートリーであり、ダラス・オペラ、サンディエゴ歌劇場、サンタフェ・オペラ、バンクーバー歌劇場、メトロポリタン歌劇場などで出演している。16/17シーズンはミネソタ・オペラ『ラインの黄金』ヴォータン、メトロポリタン歌劇場『サロメ』ヨハナーン、『フィデリオ』ドン・ピツァロなどに出演。今後の予定にバルセロナ・リセウ大劇場『トリスタンとイゾルデ』クルヴェナール、サンフランシスコ・オペラ『ラインの黄金』『ワルキューレ』『ジークフリート』ヴォータンなどに出演予定。日本では、2012年に兵庫県立芸術文化センター『トスカ』スカルピア、13年びわ湖ホール『ワルキューレ』ヴォータンに出演。新国立劇場では16年3月『サロメ』ヨハナーン、10月『ワルキューレ』ヴォータンに出演し、圧倒的な歌唱で聴衆を魅了した。

【アルベリヒ】トーマス・ガゼリ

Thomas GAZHELI

ドイツのカールスルーエ生まれ。フランクフルト音楽大学で声楽を学ぶ。ワーグナー作品を主なレパートリーとし、ザクセン州立歌劇場、中国国家大劇院、ハンガリー国立歌劇場、モンリオール、デトロイト、アテネ、ヴィースバーデンで『さまよえるオランダ人』タイトルロール、ライプツィヒ歌劇場、エッセン劇場などで「ニーベルングの指環」アルベリヒ、ペトルツェツリ劇場やチロル音楽祭で「ニーベルングの指環」ヴォータン／さすらい人、さらにパレルモ・マッシモ劇場とチロル音楽祭に『ローエン格林』テルラムントで出演している。その他のレパートリーとして、『フィデリオ』ドン・ピツァロ、『サロメ』ヨハナーン、『エレクトラ』オレスト、『カルメン』エスカミーリヨ、『魔笛』パパゲーノ、『ドン・ジョヴァンニ』リゴレットのタイトルロールなどがある。今後の予定にチロル演劇祭『ラインの黄金』『神々の黄昏』アルベリヒと『ジークフリート』さすらい人、オビエド歌劇場『ジークフリート』アルベリヒなどがある。新国立劇場では 2015 年『ラインの黄金』同役出演している。

【ファフナー】クリスティアン・ヒューブナー

Christian HÜBNER

レーゲンスブルク生まれ。ザルツブルクのパウル・ホーフハイマー奨学生となり、ドイツの若手音楽家コンクール 1 位となる。その後、ケルン音楽大学とアーヘン音楽大学で声楽をハンス・ゾーティンとロベルト・シュンクに師事。2011 年夏までプレーメン歌劇場の専属歌手として、『エウゲニオ・オネーギン』グレーミン公爵、『魔笛』ザラストロ、『トゥーランドット』ティムール、『こもり』フランクなどを歌う。その後もウィーン・フォルクスオーパー、ボン歌劇場、アーヘン歌劇場、サン・カルロ歌劇場、パレルモ・マッシモ劇場などに出演。『ノルマ』オロヴェーゾ、『ウインザーの陽気な女房たち』ファルスタッフ、『ばらの騎士』オックス男爵、「ニーベルングの指環」ハーゲン、ファフナー、フンディングなど幅広いレパートリーを持つ。今後の予定に、レンヌ歌劇場『フィデリオ』ロッコ、ブエノスアイレス・コロソ歌劇場『恋愛禁制』ブリゲッラなどがある。新国立劇場では 2015 年『ラインの黄金』同役出演している。

【エルダ】クリスタ・マイヤー

Christa MAYER

ミュンヘン音楽・演劇大学で声楽を学び、2000年のARD国際音楽コンクールを含む様々なコンクールでの受賞歴を誇る。01/02 シーズンからザクセン州立歌劇場の専属歌手となり、アルト、コントラルトの役を中心に活躍。その後、ベルリン・ドイツ・オペラ、バイエルン州立歌劇場、バルセロナ・リセウ大劇場など世界の主要な歌劇場に出演。主なレパートリーとしては『ラインの黄金』『ジークフリート』エルダ、『ナブッコ』フェネーナ、『蝶々夫人』スズキ、『ファルスタッフ』クイックリー夫人、『アラベツァ』アダライデなどがある。バイロイト音楽祭には08年に『ラインの黄金』『ジークフリート』エルダと『神々の黄昏』ヴァルトラウテを歌ってデビューを果たし10年まで連続して出演、15年、16年には『トリスタンとイゾルデ』ブランゲーネなどに出演している。今後の予定にザルツブルク復活祭音楽

報道用資料

祭『ワルキューレ』フリッカ、バイロイト音楽祭『トリスタンとイゾルデ』ブランゲーネ、ザクセン州立歌劇場『ラインの黄金』『ワルキューレ』フリッカ、『ジークフリート』エルダなどがある。新国立劇場では15年『ラインの黄金』同役に出演している。

【ブリュンヒルデ】リカルダ・メルベート

Ricarda MERBETH

ドイツのケムニッツ生まれ。ライプツィヒのメンデルスゾーン音楽大学で学ぶ。ドイツのマグデブルク劇場及びワイマールのドイツ国民劇場で出演を重ねる。1999年ウィーン国立歌劇場の専属歌手として『フィデリオ』マルツェリーネで劇場デビュー。2005年にフリーとなった後も定期的に出演している。バイロイト音楽祭は2000年「ニーベルングの指環」フライア、ゲルヒルデ、ヘルムヴィーゲ、グートルーネでデビューの後、02、04、05、07年と『タンホイザー』エリーザベトで出演を重ね、13年は『さまよえるオランダ人』ゼンタで出演した。最近の出演にミラノ・スカラ座『ヴォツェック』マリー、ハンブルク州立歌劇場『さまよえるオランダ人』ゼンタ、ベルリン・ドイツ・オペラ『タンホイザー』ヴェーヌス、ハンブルク州立歌劇場で『トリスタンとイゾルデ』イゾルデのロールデビュー、パリ・オペラ座ガルニエでライマン『リア王』ゴネリルなどがある。新国立劇場では06年『コジ・ファン・トゥッテ』フィオルディリージ、07年『タンホイザー』エリーザベト、12年『ローエングリン』エルザ、15年『さまよえるオランダ人』ゼンタに出演している。17/18シーズンは『ばらの騎士』元帥夫人、『フィデリオ』レオノーレにも出演予定。



新国立劇場 2016/2017 シーズンオペラ
ワーグナー 楽劇「ニーベルングの指環」第2日

ジークフリート

【新制作】

【全3幕<ドイツ語上演/字幕付>】

【公演日程】 2017年6月1日(木)16:00/4日(日)14:00/7日(水)14:00/
10日(土)14:00/14日(水)16:00/17日(土)14:00

【会場】新国立劇場 オペラパレス

【チケット料金】 S:27,000円・A:21,600円・B:15,120円・C:8,640円・D:5,400円・Z:1,620円

【前売開始】 2017年2月18日(土)

指揮	飯守泰次郎
Conductor	IIMORI Taijiro
演出	ゲッツ・フリードリヒ
Production	Götz FRIEDRICH
美術・衣裳	ゴットフリート・ピルツ
Set and Costume Design	Gottfried PILZ
照明	キンモ・ルスケラ
Lighting Design	Kimmo RUSKELA
ジークフリート	ステファン・ゲールド
Siegfried	Stephen GOULD
ミーメ	アンドレアス・コンラッド
Mime	Andreas CONRAD
さすらい人	グリア・グリムスレイ
Der Wanderer	Greer GRIMSLEY
アルベリヒ	トーマス・ガゼリ
Alberich	Thomas GAZHELI
ファフナー	クリスティアン・ヒューブナー
Fafner	Christian HÜBNER
エルダ	クリスタ・マイヤー
Erda	Christa MAYER
ブリュンヒルデ	リカルダ・メルベート
Brünnhilde	Ricarda MERBETH
森の小鳥	鶴木絵里/九嶋香奈枝/安井陽子/吉原圭子
Waldvögel	UNOKI Eri / KUSHIMA Kanae / YASUI Yoko / YOSHIHARA Keiko
管弦楽	東京交響楽団
Orchestra	Tokyo Symphony Orchestra
協力	日本ワーグナー協会
Cooperation	Richard-Wagner-Gesellschaft Japan
芸術監督	飯守 泰次郎
Artistic Director	IIMORI Taijiro

本公演は、フィンランド国立歌劇場(ヘルシンキ)の協力により上演されます

報道用資料

予定上演時間: 約5時間55分(休憩含む)

『ジークフリート』特設 WEB サイト(鑑賞に役立つコラム、動画続々掲載!)

<http://www.nntt.jac.go.jp/opera/siegfried/>

【チケットのご予約・お問い合わせ】 新国立劇場ボックスオフィス TEL:03-5352-9999 (10:00~18:00)

新国立劇場Webボックスオフィス <http://pia.jp/nntt/>

【チケット取り扱い】チケットぴあ、イープラス、ローソンチケット、東京文化会館チケットサービス ほか

* **Z席 1,620円**: Z席 42席とZ(音のみ)席 4席は、公演当日朝 10時より、新国立劇場 Web ボックスオフィスおよびセブン-イレブン、サークルK・サンクスの端末操作により全席先着販売します。1人1枚。電話予約不可。

* **当日学生割引(50%)**: 公演当日残席がある場合、D席・Z席を除く全ての席種について 50%割引で販売。要学生証。電話予約不可。

* 新国立劇場では、ジュニア割引(中学生以下 20%)、高齢者割引(65歳以上 5%)、障害者割引(20%)、学生割引(5%)など各種割引サービスをご用意しています。

* 就学前のお子様のご同伴・ご入場はご遠慮ください。

* **U25 優待メンバーズ/U39 オペラ優待メンバーズ(25歳以下/39歳以下対象)**: 青少年やふだん劇場に足を運ぶ機会の少ない世代の方々に舞台芸術に親しんでいただくため、お得な優待チケットの情報やゲネプロ見学のご案内などをメールでお届けする特別プランです。

・初日の2週間程度前に残席がある場合、新国立劇場の主催公演を下記の優待料金でご提供いたします。

U25 優待メンバーズ→オペラ公演S・A席が 5,000円

U39 オペラ優待メンバーズ→オペラS・A席が 11,000円(クラブ・ジ・アトレ会員は 10,000円)

・U25 優待メンバーズの方を対象に、「青少年のためのオペラ・ゲネプロ見学会」を実施。公演直前のゲネプロ(最終舞台稽古)に抽選でご招待します。(対象演目は限定されます。)

新国立劇場 WEB サイト <http://www.nntt.jac.go.jp>

東京都渋谷区本町 1-1-1 京王新線新宿駅より 1 駅、初台駅直結。

■特別企画「ジークフリート」ハイライトコンサート—邦人歌手による—

日時: 2017年5月17日(水)19:00

会場: 中劇場

指揮: 城谷正博

出演: 今尾 滋/青地英幸/大塚博章/友清 崇/志村文彦/石井 藍/橋爪ゆか/三宅理恵

料金: A席 5,400円 B席 3,240円(税込)

チケット取り扱い: 新国立劇場ボックスオフィス 03-5352-9999、チケットぴあ

報道用資料

★本演目は新制作ですが、フィンランド国立歌劇場(ヘルシンキ)の協力により上演されます。
フィンランドで上演された舞台写真を宣材としてご提供できます。



【1】 Photo:Karan Stuke



【2】Photo:Karan Stuke



【3】Photo:Karan Stuke



【4】Photo:Karan Stuke



【5】Photo:Heikki Tuuli



【6】Photo:Heikki Tuuli



【7】Photo:Stefan Bremer



【8】Photo:Stefan Bremer